

学芸員の仕事にチャレンジ！①

「古墳を歩いて大きさを測ってみよう」について

吉田修太郎

はじめに

今年度のさきたま史跡の博物館では、学生向けの体験講座を4回ほど実施した。そのうち小中学生対象の講座が3回あり、中高生対象の講座は1回あった。小中学生対象の3講座は、「学芸員の仕事にチャレンジ」という主題がつけられたように、学芸員の仕事の理解を深めることや、博物館に興味をもっていただくことを目的にした講座である。

講座のテーマとしては、第1回目は「古墳を歩いて大きさを測ってみよう」で身体を使って古墳の大きさを体験するものであり（令和5年5月7日実施）、第2回目は「出土遺物を観察・スケッチしよう」（令和5年7月17日実施）で遺物の観察を主眼としたもので、第3回目は「古墳の調査してみよう」（令和6年1月28日実施）で今年度行われた愛宕山古墳の発掘調査を体験するものであった。第1回・3回目は、屋外中心の体験講座になることから史跡整備担当の学芸員が担当し、第2回目の遺物の観察はその体験内容からも資料・展示担当の学芸員が担当した。

今回報告するのは、筆者が講師を担当した第1回目の体験講座である「学芸員の仕事にチャレンジ！①「古墳を歩いて大きさを測ってみよう」」である。実施日時は令和5年5月7日（日）10時～11時半であり（当初の予定は12時までであったが、降雨のため11時半で切り上げた）、当日のスタッフとしては、講師である筆者の他に、進行や運営として広報・学習支援担当の山本麻理子教諭にご助力いただき、学生スタッフにもお手伝いいただいた。当日の体験参加者数は、子供20名・付き添い者20名の計40名であった。

本稿では、当日実施した講座内容を項目ごとに紹介し、アンケート結果などを踏まえ、今回の講座について総括したい。なお、当日配布した資料や当日のスケジュール表については、本稿末尾に添付しているので、必要に応じて参照していただきたい。

1. 学芸員の仕事を紹介

①学芸員の仕事について

まず、講堂でパワーポイントを使用して学芸員という仕事について紹介した。子供たちに学芸員という仕事について、少しでも親近感をもってもらうために、始めに学芸員はどういった施設にいるのかという質問を投げかけた。その質問に対する答えのヒントとして、「学芸員は～館・～園という場所にいる」ということを話した。つまり、「～館」「～園」と呼ばれる施設としては、美術館・水族館・科学館・植物園・動物園などがあり、子供にも馴染みが深い水族館や動物園にも、学芸員は所属する場所があることを伝えた。ここでは学芸員は歴史系の博物館にだけいる存在ではなく、多種多様な専門分野を持つ学芸員がいることも伝えた。

また、小学校低学年の生徒もいたので、難しい話はできないと考え、学芸員の具体的な実務の話では、職務内容をできるだけ具体化し、平易な言葉で話すことを心掛けた。

②私が学芸員になるまで

次に、「私自身が歴史に興味をもったきっかけ」、「学芸員資格取得までの話」、「学生を卒業してか

らの経歴」、について話をした。当日参加した学生に確認したところ、参加主体層が小学生であり、まだ将来的な展望を描けていない年代であるために、学芸員を目指すといった学生はほとんどいなかった。そのため、ここでの話は参加した学生というよりは、子供の進路を気にする付き添いできた父母向けの話になったが、博物館の活動に興味をもつ家庭に対しては一定の意味があったのではないかと思っている。



講座風景

最後に高校生の学生ボランティアの方に、学芸員を目指すきっかけについて話

をしていただいた。参加した学生に年代的にも近い高校生が学芸員を目指す話を伝えられたこと、また早くから博物館に携わる経験を試みたいと考えている学生に対して、学生ボランティアという受け皿が存在することを示せたのは大きかったと考えている。

③さきたま史跡の博物館における学芸員の仕事を紹介

3つ目にさきたま史跡の博物館の学芸員の活動について紹介した。当館に所属する学芸員は、広報・学習支援担当、資料・展示担当、史跡整備担当の3つに分かれ、それぞれが分掌する仕事の中身についてその概略を話した。

今回は筆者が属する史跡整備担当の職務の一つとして、古墳の発掘調査から報告書作成までの流れをスライドを用いて説明し、また小学校低学年の学生には難しい内容であるが、史跡整備は事実に基づいた整備でなければならず、それを確認するために発掘調査を実施していることを伝えた。当館は埼玉古墳群に隣接していることから、古墳群の史跡整備を担当する学芸員が常駐していることが特徴である話もした。

2. 学芸員の仕事を体験—埴輪の観察—

続けて「学芸員の仕事を体験」として、埴輪の観察をクイズ形式で行った（本稿末尾掲載：ワークシート）。埴輪は埼玉古墳群の発掘調査では必ず出てくる遺物であり、その観察を行うことは必須なので、学芸員の仕事を体験するものとして、埴輪の観察を取り扱うことにした。埴輪は視覚的にも衆目の興味をひく遺物であり、考古学にあまり興味のない学生にとっても楽しんでもらえるのではないかという思いもあった。観察対象の埴輪は、当館所蔵で瓦塚古墳から出土した弾琴男子埴輪であり、出前講座で使用する学習用のレプリカである。

①埴輪の簡単な説明

観察をする前に、埴輪の役割について簡単な説明を行った。埴輪は大きく円筒埴輪と形象埴輪に区分され、円筒埴輪は墳丘に並べられ、古墳をまもる魔除け的な役割があったと推測されていること、形象埴輪は中堤などにまとめて並べられることが多いが、それは被葬者が生前行っていた執務(政治)や重要な儀式を表現したものであると考えられることを説明した。

②問題1 埴輪は男性か女性か？

問題1として、埴輪の人物は男性か女性かという問いを出した。問題に関する説明では、単に答えを言うのではなく、根拠をあげて結論を出すことが大事であることを強調した。小学校低学年の児童もいたので、そこは付き添いできている父母と相談しながら答えを導き出して欲しいとお願いした。

今回は根拠を3つあげて答えを出すことを課題とし、埴輪の観察をしてもらった。筆者が想定していた答えとしては、①刀を持っていること、②ズボンをはいていること（ズボンは騎馬の風習に係るものなので当時は男性の服装となる）、③美豆髪（みずら）（古墳時代の高貴な男性の髪型）であることから、答えは男性であると思いきや（今考えればかなり難しい問いであると思う）、当日は筆者の想定以上に様々な答えをきくことができ、興味をもって観察していただいたことを実感できた。当日の学生の回答としては、当初の想定通り髪が長いことから女性とするものが多かった。

③問題2 何をしている埴輪か？

次に、何をしている埴輪かという問題を出した。答えは「琴を弾いている」であるが、問題1で性別は男性と知っていることもあり、現代的な観点で琴は女性がひく楽器という先入観があったためか、なかなか琴を弾いているという答えに行きつく学生は少なかった。

問題1・2を通して、髪型が長いのは女性であるといったことや、琴という楽器を弾くのは女性であるという現代的な先入観で、古墳時代という社会を考えてはならないことを伝えた。



クイズ対象の埴輪
(弹琴男子埴輪)



埴輪の観察状況

3. 歩測の練習

埴輪の観察終了後、いよいよ今回の体験講座の本題である歩測に入った。まず、古墳の大きさを測る意味や歩測の方法を確認し、講堂で練習を行った。

①古墳の大きさを調べるこの意味

古墳の大きさについては、大きい古墳はそれをつくるために多くの人員を集めなければならないので、古墳は大きければ大きいほど力を持った人物が眠る古墳である可能性が高いことを確認した。そのうえで古墳の大きさを調べれば、他のいろんな古墳と大きさを比較することができ、各古墳の被葬者が生前どの程度力をもっていたのか推測可能になることを説明した。

また、歩測のように自分の身体を使って距離をはかることと関係して、古代では自分の身体を使って物の大きさを測っていた話も付け加えた（身体尺の話）。

②歩測方法の確認

学生一人一人の歩幅は、当然ながら年齢性別体格によって千差万別であり、そのまま個人の感覚で歩測を行ってしまうと、正解を全体で確認する際に煩雑になってしまう。そのために今回の講座では1歩 = 50cmと指定し、その歩幅を把握してもらったうえで、歩数を数えて距離を測る方法に統一した（1歩 50cm × 歩数 = 距離）。

③講堂で練習

口頭による説明だけでいきなり古墳の歩測を実施するのは、学生の年代層を考えるとかなりハードルが高いと感じた。そこで、こちらで指定した方法を浸透させ、現地での歩測を円滑に実施するために、講堂で歩測の練習をすることにした。現場の歩測に入る前に何度か練習をしておけば、全体的外れの答えにはならないはずであり、体験に参加した学生に残念感が出ないのではないかという思いもあった。

講堂での練習では、こちらの方で事前に講堂の前後に5m・7mのテープを、左右の座席間の通路に3mのテープを貼り、合計6か所で歩測の練習をできるようにした（本稿末尾掲載：講堂会場配置図）。どのテープにもその起点には50cm幅のスケールをつけ、50cm幅をしっかり把握してもらえるようにした。

講堂での歩測の練習は、6か所体験できる場所を設けたため、比較的混むことがなく、スムーズにこなすことができた（参加者数が20名だったので、1か所あたり3名程度）。3m・5m・7mと段階を追って正解を放送し、自分の答えとのズレを修正してもらいながら、歩測のコツをつかんでもらえるように努めた。



講堂での歩測

4. 歩測の実践

当初の計画では二子山古墳を歩測の対象としていた。その理由としては、二子山古墳は武蔵で一番大きな古墳であり、武蔵エリアで最も力を有した被葬者が眠る古墳として歩測後の意義付けがしやすかったからである。ただ、講座当日は事前の天気予報で悪天候が予想されたため、博物館に近く足元が芝生で雨の中でも歩測が可能な瓦塚古墳でも実施できるように準備しておいた。当日は事前に危惧されたように悪天候となり、歩測の対象は瓦塚古墳に変更となった。

①会場の事前準備

歩測の会場は、瓦塚古墳の長軸をはかる東側中堤と、前方部南辺の長さを測る中堤南側に設定した（本稿末尾掲載：瓦塚古墳歩測会場図）。瓦塚古墳は全長約73 mであるので、東側中堤の歩測は区切りの良く70 mを正解とし、前方部南辺は44 mであるが45 mを正解とした。

瓦塚古墳の中堤は芝生であるが、今回の講座は5月であったこともあり、雑草の成長が著しく、繁茂してとても歩きづらい状況だった。そのため事前に公園担当の職員の方をお願いして、瓦塚古墳の歩測場所の草刈りを行っていただいた。除草作業のおかげで、安全面で不安がなくなり、また快適に歩測を行うことができた。

中堤東側の歩測会場では、始発点・終着点にピンポールとカラーコーンを置き、石灰でラインを引いて明示した。また、出発点から20 mの地点に距離がわかるようにカラーコーンを置いた。歩測体験の中で50cmの歩幅を確認したい学生も出ると思ったので、スタッフも事前に数本用意しておいた。中堤南側の歩測会場では、ピンポールで墳丘南辺の範囲を示し、歩測できるように準備した。



事前準備状況

②歩測の実践

講堂内での講座が終わり、実際に古墳の歩測を行う流れになったが、当日は雨脚が強まってきたために、希望制にして実施する方針をとった。雨は大分強かったが、ほぼ全員の学生に参加していただき、大変ありがたかった。

レストハウスに荷物を置いていただいてから瓦塚古墳に向かい、学生には順次スタート地点に立っていただき、歩測を開始してもらった。まず、出発点から20 m先にカラーコーンをおいてあることを説明し、そこまでの歩測を行ってもらった。一つ目のカラーコーンまでの距離が20mであることを事前に知らせておくことで、そこまでの歩測による自分の距離感覚と実際の距離のズレを認識し



歩測実施状況

てもらえることができた。その後ゴールまでいった学生は、復路の歩測も行ってもらい、往路の歩測の確認をしてもらった。参加した学生は、小学校低学年から中学生に至るまで年齢差があり、歩測の進捗にも大きいズレがあったので、終わった学生には前方部南辺の歩測も体験してもらった。

最後に全員で集まり、現地で答え合わせを実施した。事前に1歩50cmとする練習をしていたので、大外れの答えを言う学生はおらず、答えがあっていたことが嬉しかったのか多くの学生に喜んでいただき大変ありがたかった。

5. アンケート結果について

最後に、参加者のアンケート結果を報告し、それを振り返りながら若干の私見を述べることにしたい。アンケートの回答率は100%で全員の回答を得ることができた（本稿末尾掲載：アンケート集計結果）。

①質問事項：どちらからいらっしゃいましたか

参加者の内訳は県内居住者17名、県外者は3名であった。県内に関しては博物館近隣市町村に偏ることなく、県内全域から参加していただくことができた。今回の講座が埼玉県内の博物館や古墳などに興味をもっている学生の受け皿として機能していたことがわかり、開催した意義を感じることもできた。

僅かながら県外の学生に参加していただいたが、それは隣県に同様の学生向けイベントを開いている博物館が少ないことを意味しているのではないかとも感じた。

②質問事項：学年を教えてください

参加した学生の年齢層は、未就学生1名、低学年7名（小学校1・2年生）、中学年5名（小学校3・4年生）、高学年5名（小学校5・6年生）、中学生2名であった。小学校中学年以下（4年生以下）が過半数を占めた。

私が今回の講座を進める中での印象としては、高学年・中学生の参加者は学芸員という仕事に関心をもってきており、中学年以下の参加者は古墳やイベントという場を楽しみにきていたように感じた。

③質問事項：さきたま史跡の博物館にいらっしゃるのは何回目ですか

参加者のうちほぼ半分近くが初めてきたということであった。通常企画展やイベントは、リピーターを獲得することを目的に開催することが多いと思うが、今回のイベントに関してはむしろそうではなく、学生が初めて博物館に来るきっかけとして機能した側面があったことがわかった。

参加できる人数から考えればその効果はわずかであるが、イベントには学生だけでなく付き添いの父母も多く参加していたため、充実したイベントを開くことができれば、口コミなどで学生の来館者を増やすことが可能であり、そうしたことを促す契機となるイベントにできるように感じた。

④質問事項：今回の催し物をどのようにして知りましたか

今回のイベントを知ったきっかけとしては、ホームページが13名であり、参加者の多くがインターネットを介しての応募であった。インターネット全盛の時代であるために、当然の回答かもしれないが、当館としてもインターネットを介した広報をより充実させていくことの必要性を再認識したアンケート結果になった。

別件ではあるが中高生講座では、考古学や歴史をテーマとするクラブがある高校を狙って広報した結果、高校生に参加者数が大部分であったという。広報もただ闇雲に行うのではなく、きちんと狙いをもって実施すれば、それなりに結果が生じるということを知った出来事でもあった。引き続き講座のターゲット層を絞り、広報していくことが必要であろう。

⑤質問事項：今日の催し物はどうでしたか

アンケート結果による講座の満足度としては、大変良かった13名、まあまあ良かった6名、普通1名と、大部分が良い以上の評価をしていただいた。古墳の歩測は、付き添いで参加した父母と相談しながら行う学生も多くいたために、親子参加型イベントという側面があり、それによる満足度の高まりがあったのかもしれない。また、歩測という遊びの要素を取り入れたイベントを実施したことで、どこか持っていそうな博物館に対する固いイメージを、少し和らげることができたのではないかと思っている。

高校生以下の学生は、なかなか博物館まで一人で来ることができる移動手段をもたないので、イベントに参加していただくためには、付き添いで参加する父母の目にとっても十分魅力あるイベントに映らなければならない。一見矛盾するようであるが、学生向けイベント成功への近道は、父母の満足度を高めることであるように感じた。

⑥質問事項：職員の対応はいかがでしたか

職員の対応については、大変良い16名、良い4名であり、講師を務めた私自身としては大変ありがたいアンケート結果をいただいた。

今回良い評価をいただいた背景には、学生ボランティアを含めて3人体制で講座を実施することができ、1人あたりの対応できる学生数が少人数であったことが大きかったと考えている。引き続きどの体験講座についても、複数人体制で臨むことが望ましいと考える。

⑦質問事項：あなたが興味のある催し物は何ですか（いくつ〇をつけても構いません）

この質問事項のアンケート結果としては、こちらが設定した回答項目に引きずられた感があるが、子供向けの製作体験18名、古代体験「まが玉作り体験」15名、古代体験「火起こしに挑戦」10名、古代体験「古代衣装」9名とあるように、回答の多くが体験型イベントであった。

このアンケート結果は、今回の講座に参加した学生の大部分が小学校中学年以下であったことが関係していると思われる。個人的には、今回の講座は学芸員の仕事を紹介する座学的な要素と歩測などの体験型要素を折衷したイベントであったが、これからは対象を絞り、どちらかに特化したイベントにした方が良いように感じた。

⑧質問事項：今回の体験実習に参加されたご感想・ご意見をお聞かせください（自由記入）

様々なご意見・ご感想をいただいたが、その多くが埴輪や古墳に興味をもったという趣旨の内容のものであった。その一方、学芸員の仕事に対する感想があまりみられず、そのあたりに今回の講座で反省すべき点があるように感じた。

おわりに— 一本講座の評価と課題 —

最後に本講座の評価と課題を述べてむすびとしたい。

今回の講座の評価点としては次のことがあげられるように思う。

①今回の講座は、当館周辺の市町村のみならず県内全域や近隣県の学生に参加していただき、博物館や古墳に興味をもつ学生の受け皿として機能した。

②参加した学生の大部分が初めてというアンケート結果が出た。その点からも、今回の講座は学生を初めて博物館に足向けさせるイベントとして機能した。

③学芸員という仕事に興味をもつ学生とその付き添いできている父母に、学芸員の職務内容や学芸員になるまでの経歴を示せたことは、未来の博物館の担い手を育成する上でも意義ある講座であったと評価できる。

④今回の講座は、歩測という形で遊びの要素を取り入れながら古墳の大きさを測ってもらうものであったので、博物館に対する固いイメージを和らげるイベントとしても意味があったと考える。

次に課題としては、以下の点があげられるように思う。

①参加した学生の年齢層が広く、どの年代に的を絞った講座を行うべきか判断に迷った。講座での学芸員に関する内容は、小学校高学年から中学生には理解できたと思うが、まだ進路に十分な関心をもっていない中学年以下には難しい内容になっていたと思われる。もう少し講座対象の年齢層を絞る必要があったように感じた。

②歩測対象の古墳の選定が不十分であった。当初二子山古墳を歩測の対象としていたが、二子山古墳の歩測可能な中堤は砂利道で学生が歩測を行う上で好ましいものではなく、悪天候の際は歩測ができなくなるので、はじめから中堤が芝生で歩きやすい古墳（奥の山古墳・瓦塚古墳・将軍山古墳など）を選定すべきであった。

③会場を瓦塚古墳だけしか用意していなかった。初めての体験講座であり、学生の歩測スピードがわからなかったことから仕方がない面もあるが、当日の歩測のスピードを見る限り、もう一つ歩測できる古墳を用意しておいても良かったと考える。

④今回の歩測会場の除草は、前日に公園担当者が出勤していたために助かったが、事前に行っていたように、計画的にお願いするべきであった。

⑤今回の講座は学生ボランティア含めて3名の対応であり、十分余裕のある対応をすることができた。今後も運営の人員としては、3名体制で臨むのが良いと感じた。

以上、本講座の評価と課題について述べてきたが、今回の講座が博物館や古墳に興味をもつ学生に対して一定の意味をもったことは間違いなく、今後も同様の子供向けの体験学習講座を設け、魅力ある博物館運営を目指す必要がある。

本稿は、筆者が講座を運営する上で感じたことをまとめたものであるが、今後同様の学生向け講座を行っていく上で、本稿でまとめたことや指摘したことが少しでも寄与するところがあれば幸いである。

令和5年5月7日(日)

学芸員の仕事にチャレンジ①「古墳を歩いて大きさを測ってみよう」

◎学芸員（がくげいいん）のしごとをすこし体験（たいけん）！！

問題1 この埴輪（はにわ）は男性？女性？

こたえ

なぜそうおもうのか？（その理由を3つあげてみよう！！）

・

・

・

問題2 この埴輪はなにをしているの？

こたえ



問題3 黒線、赤線、白線の長さは、何m？

・黒線 50 cm × () 歩 = () m

・赤線 50 cm × () 歩 = () m

・白線 50 cm × () 歩 = () m

※ 50 cm = 0.5m 、 100 cm = 1 m

○二子山古墳(ふたごやまこふん)の大きさをはかってみよう！！

0.5m × () 歩 = m

主な埼玉県・東京都の古墳（100m以上の古墳）

- ・真名板高山古墳（まないたたかやまこふん）（埼玉県行田市）・・・127 m
- ・稲荷山古墳（いなりやまこふん）（埼玉県行田市）・・・120 m
- ・野本将軍塚古墳（のもとしょうぐんづかこふん）（埼玉県東松山市）・・・115 m
- ・小見真観寺古墳（おみしんかんじこふん）（埼玉県行田市）・・・112 m
- ・鉄砲山古墳（てっぽうやまこふん）（埼玉県行田市）・・・107 m
- ・亀甲山古墳（かめのこやまこふん）（東京都大田区）・・・107 m
- ・天王山塚古墳（てんのうやまづかこふん）（埼玉県久喜市）・・・107 m
- ・芝丸山古墳（しばまるやまこふん）（東京都港区）・・・106 m
- ・丸墓山古墳（まるはかやまこふん）（埼玉県行田市）・・・105 m

○二子山古墳の大きさをはかってみてなにがわかったの？

博物館・歴史・古墳に興味がある小・中学生 みんな集まれ!

学芸員の仕事にチャレンジ!

博物館で働いている人を「学芸員」といいます。学芸員は古墳やそこから出てきた物(遺物)を調べるためにたくさんのスキル(技)をもっています。

小・中学生のみなさん、そのスキルの一部を身に付けてみませんか?

全3回のチャレンジで歴史や博物館をもっと好きになってみましょう!

本物の出土品を
近くで見たい...

古墳について
もっと知りたい!

博物館ってどんな
ところなんだろう?

博物館のお仕事を
体験してみたいな!

そんな小・中学生の**疑問**や**思い**にお答えします!

	月日(曜日)	タイトル	内容
初級編 古墳に興味を持とう	令和5年 5月7日(日)	古墳を歩いて 大きさを測ってみよう	埼玉古墳群について知る 古墳の大きさを歩いて測る
中級編 観察力とまとめる力Up	令和5年 7月17日(月・祝)	出土物を 観察スケッチしよう	出土してきた遺物について知る 遺物をよく観察してスケッチする
上級編 学んだスキルを生かそう	令和6年 1月28日(日)	古墳の調査をしてみよう	古墳の発掘の仕方について知る 今まで学んだことを生かして...

◇ 時 間 10:00 ~ 12:00 (受付 9:45から)

◇ 対 象 小学生・中学生 ◇ 定 員 各イベント15組

◇ 会 場 さきたま史跡の博物館・埼玉古墳群(各回ごとに異なります)

◇ 参加費 無料(ただし小・中学生以外の方は入館の際に観覧料がかかります)

◇ 申込期間 4月4日(火)~5月1日まで ◇ 申込方法 電子申請・電話(048-559-1181)

※ 天候等によっては内容が変更することもあります。ご了承ください。

3回全部チャレンジ!

歴史が好き! 博物館が好き!!
という方。

ぜひ3回まとめて参加を
してみませんか? 3回続けて参加
することで博物館の仕事や
考古学により親しめます。



まずは1回チャレンジ!

興味はあるけれどどんな感じか
を知るために第1回目(5月7日
(日))だけの参加はこちらから申
し込みをしてください。

まずは古墳がどれくらい大きい
自分の足で調べてみましょう。



問合せ先 〒361-0025 埼玉県行田市埼玉 4834
[TEL] 048-559-1111 (代表) 048-559-1181 (学芸)
[mail] k5911111@pref.saitama.lg.jp (広報・学習支援担当)



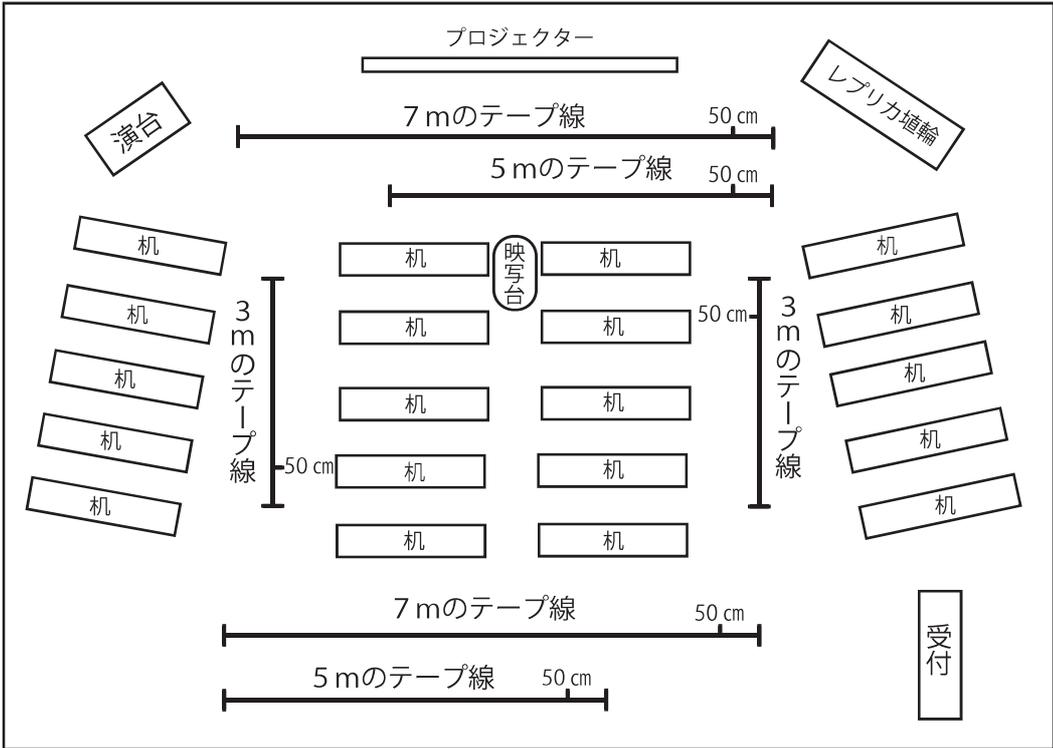
【スケジュール】

○館内

- 10:00 開始
 本日の流れ
 スタッフ紹介
- 10:05 学芸員は何をするお仕事なの？
- 10:10 私が学芸員になるまで
- 10:15 学生ボランティアさんにきいてみる
 学芸員を目指すきっかけ、学生ボランティアについてお話していただく
- 10:20 さきたま史跡の博物館の学芸員のしごと
- 10:25 学芸員の仕事を体験（問題①②）
 レプリカ埴輪の観察を実施
 レプリカは触れても良いが、倒壊の恐れがある触り方をしないように注意
 問題を理解していない子供がいたら個別にサポート
- 10:35 館内歩測練習
 線は6つあり。空いている場所に入って体験をしてもらう。
 歩測に手間取っている子がいた場合は補助
 空いている線に誘導
- 10:50 答え合わせ
- 10:50～11:00 休憩

○館外

- 11:00 館前に集合、瓦塚古墳に向けて出発（悪天候のため歩測対象を変更）
 移動の際は安全対策のため、集団の前後に職員が入る。
- 11:05 瓦塚古墳到着
 スタート地点から20mの位置にカラーコーンを置き、距離感を確認。
 スタッフをもっていただき、歩幅に迷う学生をサポート
- 11:30 歩測終了、答え合わせ
 アンケート提出次第解散、終了



講堂会場配置図



瓦塚古墳歩測会場図

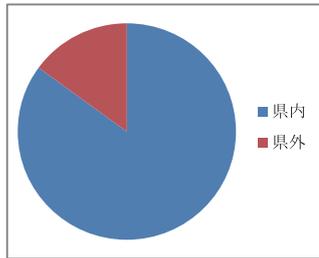
学芸員の仕事にチャレンジ① アンケート集計結果

有効回答数 20 参加者数 20 回答率100%

1 どちらからいらっしましたか。

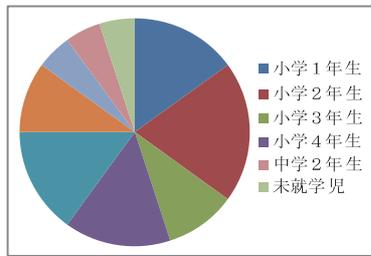
行田市	1
鴻巣市	2
深谷市	2
羽生市	1
加須市	1
鶴ヶ島市	1
飯能市	1
白岡市	2
草加市	1
上尾市	1
杉戸町	1
毛呂山町	2
川島町	1
東京都	1
神奈川県	1
群馬県	1
計	20

県内	17	85.0%
県外	3	15.0%
計	20	



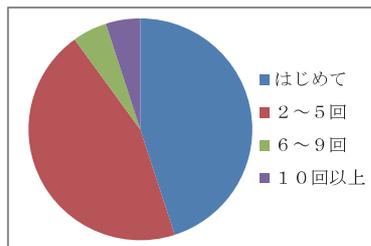
2 何年生ですか。

小学1年生	3	15.0%
小学2年生	4	20.0%
小学3年生	2	10.0%
小学4年生	3	15.0%
小学5年生	3	15.0%
小学6年生	2	10.0%
中学1年生	1	5.0%
中学2年生	1	5.0%
未就学児	1	5.0%



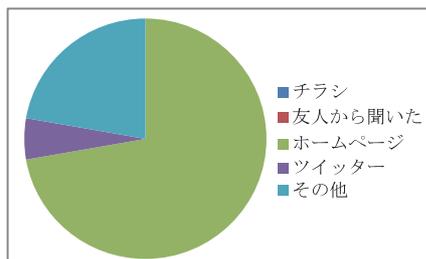
3 さきたま史跡の博物館にいらっしやるのは、何回目ですか。

はじめて	9	45.0%
2～5回	9	45.0%
6～9回	1	5.0%
10回以上	1	5.0%



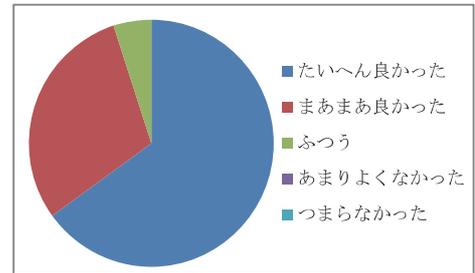
4 今回の催し物をどのようにお知りになりましたか (複数回答可能)

チラシ	0	0.0%
友人から聞いた	0	0.0%
ホームページ	15	75.0%
ツイッター	1	5.0%
その他	4	20.0%



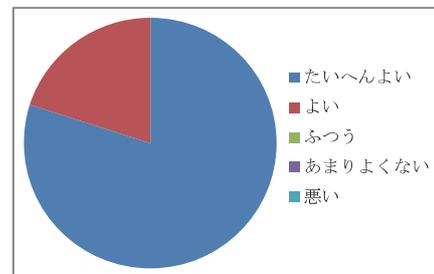
5 今日の講座はどうでしたか。

たいへん良かった	13	65.0%
まあまあ良かった	6	30.0%
ふつう	1	5.0%
あまりよくなかった	0	0.0%
つまらなかった	0	0.0%



6 職員の対応は、いかがでしたか。

たいへんよい	16	80.0%
よい	4	20.0%
ふつう	0	0.0%
あまりよくない	0	0.0%
悪い	0	0.0%



7 興味のある催し物は何ですか。(複数回答)

考古学の展示	6	7.4%
子供向けのさきたま講座	9	11.1%
古墳キッズガイドツアー	8	9.9%
古代体験「まが玉づくり」	15	18.5%
古代体験「火おこしに挑戦」	10	12.3%
古代体験「古代衣装」	9	11.1%
自由研究コーナー	6	7.4%
子供向けの製作体験	18	22.2%

